



2017(平成29)年8月号

盂蘭盆会

梅雨が明け、本格的な夏の到来です。しばらくは、暑さと上手に付き合っただけで体調を崩さないように気を付けたいといけませんね。

今月(8月12日)は、当会館におきまして盂蘭盆会(うらぼんえ)法要並びに永代経法要をお勤めいたします。お盆の季節になりますと、多くの方がお墓やお寺にお参りになります。お盆は古来より日本で勤められてきた仏教行事で、お釈迦さまの説かれた「盂蘭盆経」が由来となっています。弟子・目連尊者が、餓鬼道で苦しむ母親を助けたいとお釈迦様に救いを求めたことが起源となっています。

現在では、亡き方の霊を鎮めるといった民俗信仰が結びついて、本来のお盆の意味とは異なる事が、当たり前のように行われています。お仏壇に胡瓜や茄子で作られた馬や牛を飾るのもその一つです。では、浄土真宗のみ教えを聞く私たちは、どのようにお盆を受け取ればよいのでしょうか。

そもそも、目連尊者の母親が餓鬼道に落ちたのは、我が子可愛さに他の子どもを陥れてまでも我が子の幸せを願う心があつたからです。それは、私達にも持ち合わせている心ではないでしょうか。そこでお釈迦さまは、目連尊者に「諸僧を供養せよ」と仰せになりました。供養するとは、霊を鎮めると思われがちですが、そうではなく、仏・法・僧の三宝に帰依するという意味なのです。それは、私たちが三宝を敬う心を持つことです。

お盆をお迎えするにあたり、亡きご先祖を縁として、浄土に生まれる道である仏法を聞かせていただきましょう。

さて、お盆の時期となりますと、我々僧侶は忙しくなります。と言いますのも、ご門徒のお宅へお盆参りに伺うからです。これまで、学生時代に山口県の自坊でお盆参りの手伝いを初めとして、本願寺の職員となつてからは、北海道の帯広でのお盆参りなど、多い時には一日30件を超えるお宅へ、汗を拭き拭きお盆参りに行つておりました。

ある年の夏、この日も一日30件程のお宅へお盆参りの予定をしており、事前にハガキで「○日の○時頃伺います。」と連絡していました。最初は時間通り順調に進んでいましたが、あるお宅に伺った際、私が家の庭に入ろうと門を開けた瞬間、放し飼いにされていた犬が勢いよく走ってきて門の外へと飛び出していきました。

呆然としていましたら、そのお宅の方が出てきて、「お寺さん、捕まえて！」と言われたので、急いで家の方を車に乗せ、逃げた犬を追いかけました。どこに逃げたのだろうかと探しているところ、ようやく犬を見つけました。しかし、外に出た解放感からなのか、犬は興奮状態で、車に入れようとする飼い主の手に噛みついて、入ろうとしません。そこで、仕方なく私が代わりに犬を車へ促し、膝の上に犬を座らせて運転し、何とかそのお宅まで戻ることができました。

その後は、当然予定が大幅に狂い、大変な思いをしたある夏の記憶です。愛犬家の方は、お参りの時、犬が逃げ出さないようご注意ください。(笑)

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. 御布施は僧侶の報酬？

A. 仏さまへの報酬

法事や月忌参りなどで、僧侶を招いて仏事を勤める時、御布施が渡されますが、この御布施の額が気になる人がいます。「いくらぐらいお包みすればよいのでしょうか。あまり少ないと失礼ですの？」といった調子です。

多すぎて困ることはないのですが、要は相場を聞きたいのでしょうか。しかし、そういうお尋ねがあっても私はできるだけ金額を言わないようにしています。それは、御布施が自ら進んで上げる性質のものだからです。ただ言えることは「喜んでさせていただく気持ちが大切」ということでしょう。金額を気にするよりも、もつと考えていただきたいことは、御布施本来の意味です。

習慣化される中で、私たちは、ついお布施を一種の報酬のように捉えてはいないでしょうか。僧侶が読経したことに対する代価、御礼として扱って

しまいがちです。しばしば、表書きに「御経料」とか「回向料」と記した金封に出会いますが、これなどはまさしく僧侶への報酬の感覚です。

布施というのは、そもそも仏教の大切な実践行の一つで「ほどこす」という言葉です。その布施行には、報を説く「法施」、財物を施す「財施」、畏怖の念を抱かせない「無畏施」があります。金封の「御布施」は、このうち財施にあたるわけです。

さらに、これらの布施を行う場合、施す人と施される人、施し物の三つがともに清浄でなければならぬとされます。

つまり、見返りを期待したり、何か魂胆があったりすれば、布施にはならないのです。

ただ浄土真宗では、こうした布施を、善根を積んでさとりに近づくための修業とはせず、阿弥陀さまの間違いないすくいを喜び感謝する報恩行であるとしています。すなわち、御布施は僧侶への報酬ではなく、仏さまへの報酬として捧げるものです。

新・仏事のイロハ』より抜粋

お知らせ

第70回築地本願寺

納涼盆踊り大会

期日 8月2日(水)～5日(土)

時間 19時～21時

会場 築地本願寺 境内

築地銘店会をはじめとするたくさんのお店が軒を連ね、ステーキ、焼き鳥、もつ煮込み、焼売、漬物、卵焼きなど、飲んだり食べたりが盆踊りのお楽しみ。日本の台所・築地で開催される盆踊りは「日本一おいしい盆踊り」なのです。是非お出かけください。

平成29年の年回表

(ご法要のお申し込みをお忘れなく)

平成29年 年回表	
1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
23回忌	平成7年
25回忌	平成5年
27回忌	平成3年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年

7月行事の様子

★常例法座 7月9日(日) 13時～15時

正信偈を皆さまと一緒に勤めし、ご講師・七里順量師よりご法話をいただき、17名の方が参拝されました。

勤行「正信偈」



七里順量師



7月の誕生日の皆さま



悩を抱える私たち凡夫がいかに救われていくか、笑いを交え、わかりやすくご法話いただきました。

★キッズサンガ1泊サマースクール 7月29日(土)～30日(日)

お寺に泊まろう！と、ご縁の子ども達に呼びかけ、今年は21名のキッズが集まってくれました。夏の楽しいひとときを賑やかに過ごすことができました。

班活動



みんなでゲーム



食事のことは



朝のお勤め



キャンドルサービス



流しそうめん



東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 8月の行事予定

孟蘭盆会・永代経法要 納涼懇親会

ご講師 熊原 博文師
(埼玉県 正善寺)



8月12日(土) 午後1時～

お盆の法要に合わせ、永代経法要も勤めます。
懇親会も行いますので、是非ご参加ください。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

8月16日(水) 午前7時～

▶ 9月の行事予定

境内清掃

境内の草取りを中心に行います。
ご協力よろしくお願ひいたします。
※雨天時は中止となります。

9月9日(土) 午前9時～

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

今年で37回目となる追悼法要です。
平和への思いを新たにいたしましょう。

9月18日(月)

秋季彼岸会

ご講師 毛利 祥真師
(神奈川県 立徳寺)
どうぞ、お気軽にお参りください。



9月23日(土) 午後1時～

東久留米会館会報 「ともしび」
第256号
発行日 2017年8月1日
発行者 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話番号 042-1474-6787

編集後記

子どもは夏休みになり、毎日大いに楽しんでます。子どもの頃、夏休みはあつという間に終わってしまふように感じていましたが、親になった今では長く感じるものですね。(安)

お晨朝お休みのお知らせ

8月7日(月)・8日(火)
22日(火)・23日(水)・24日(木)
お休みさせていただきます。

今月のお仏飯米のご進納

神谷 正弘様 山下 肇様
高橋 操様
ありがとうございます。